

平成31年・令和元年度（2019年） の雲仙岳の火山活動状況

令和2年2月4日

令和元年度 雲仙岳火山防災協議会

火山活動経過図

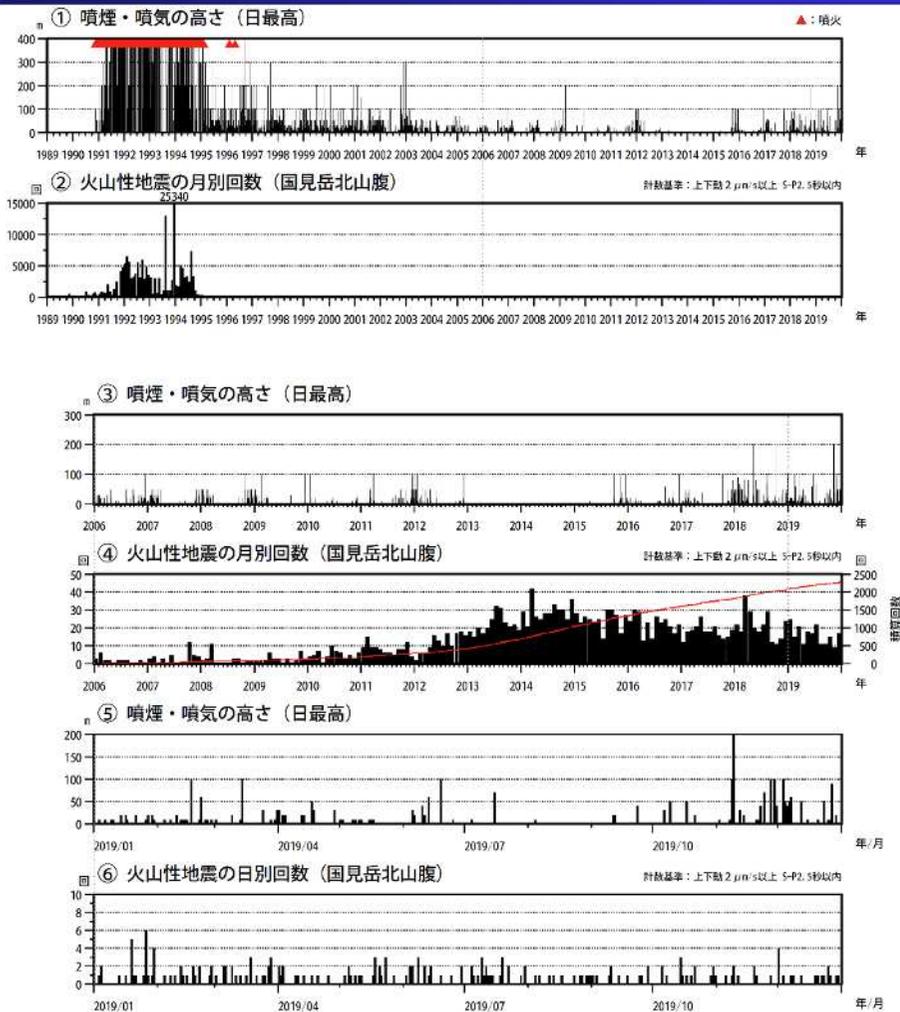
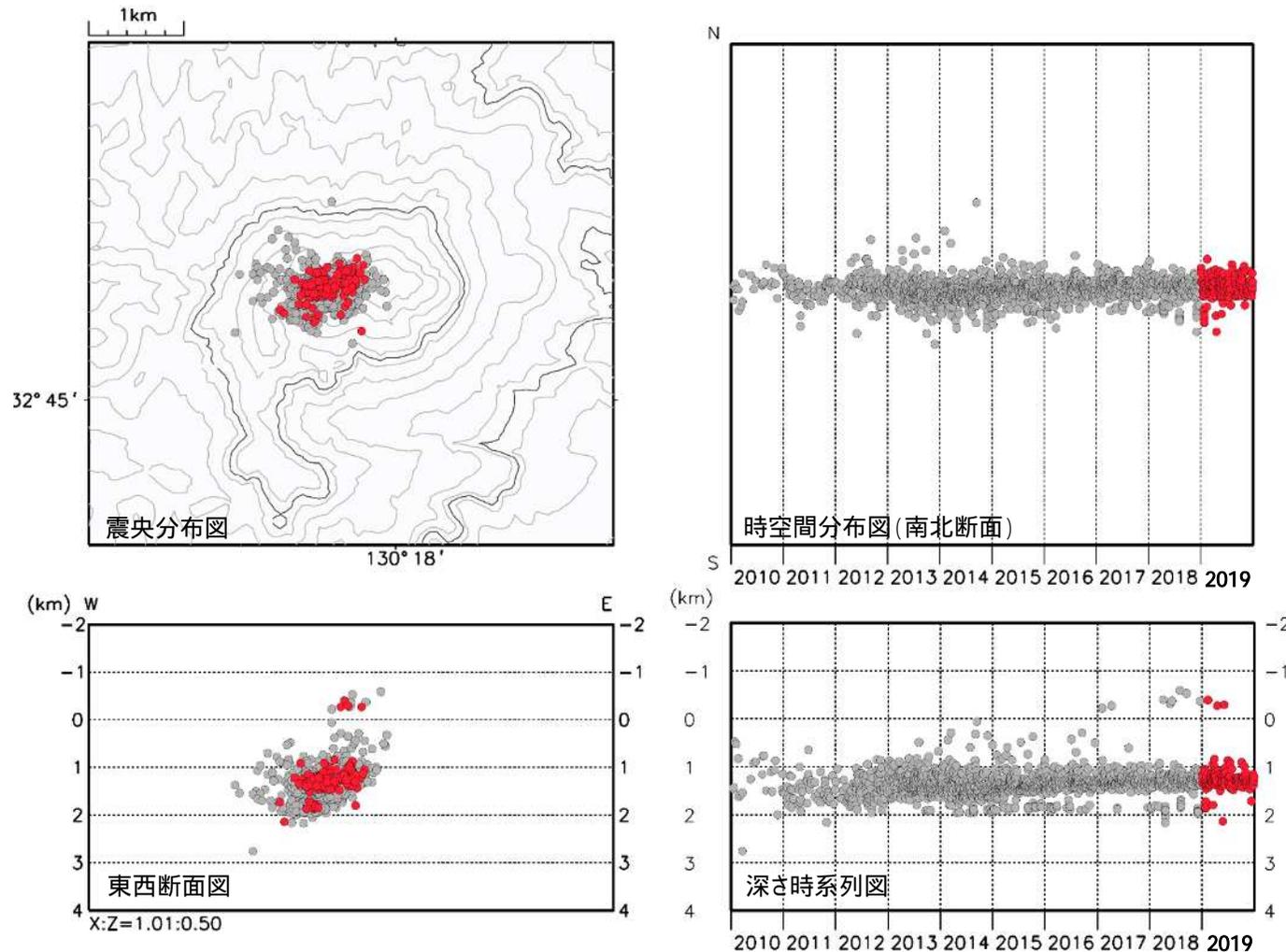


図3 雲仙岳 平成新山の状況
(11月9日、野岳監視カメラによる)

図2 火山活動経過図（1989年1月～2019年12月）

- ・白色の噴気が噴気孔上100m（11月：200m）まで上がりました。
 - ・火山性地震の月回数は17回（11月：9回）と少ない状態で経過しました。
 - ・2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。
- 火山性地震の回数については、2012年8月31日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動 5 $\mu\text{m/s}$ 以上）で計数しています。
灰色部分は監視カメラの障害による欠測を示しています。
の赤線は地震回数の積算を示しています。

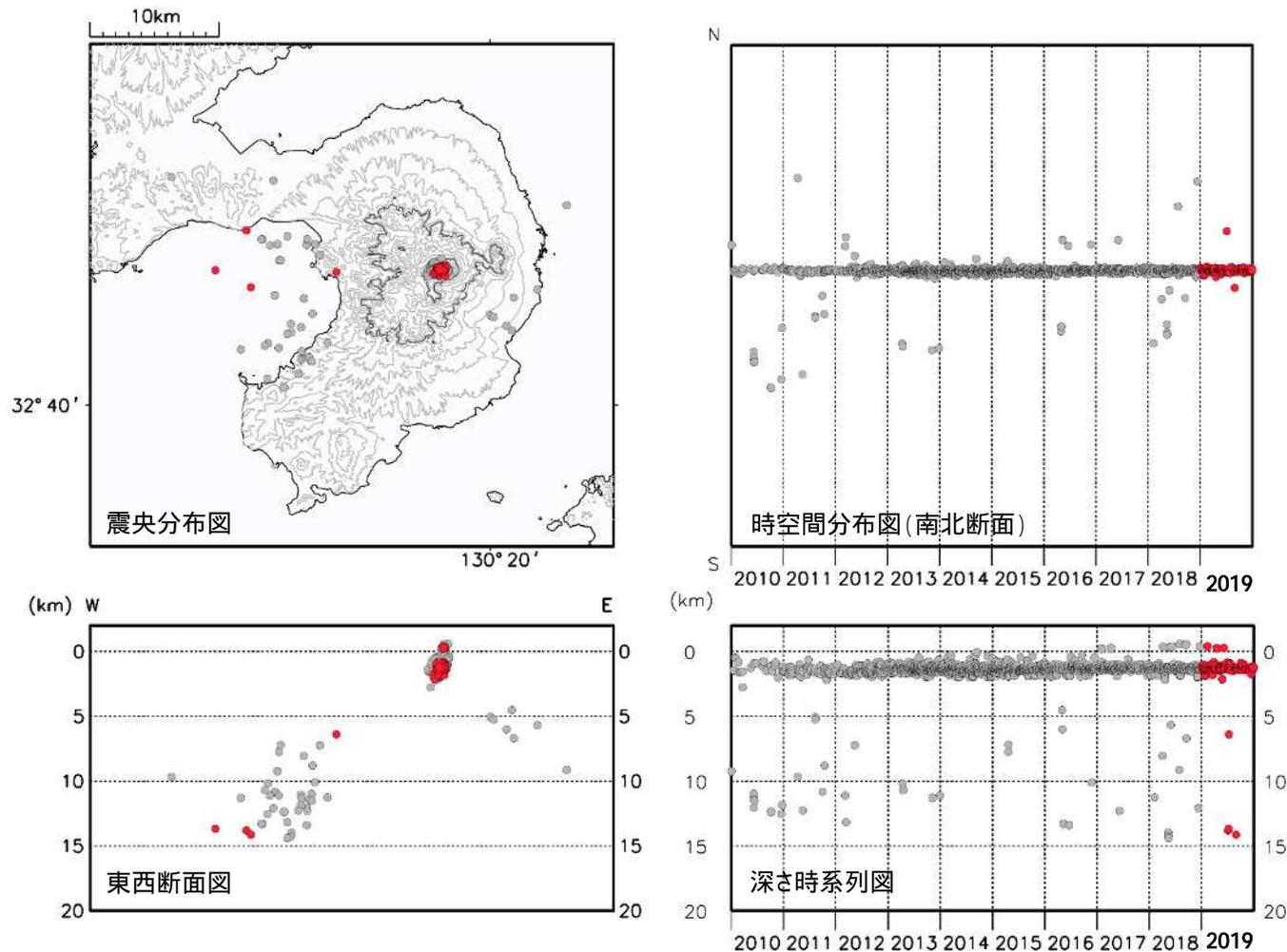
火山性地震の発生状況



： 2019年1月～2019年12月の震源
： 2010年1月～2018年12月の震源

図4 火山性地震の震源分布図(2010年1月～2019年12月)
震源(、)は普賢岳から平成新山直下の深さ0km付近と深さ1～2kmに分布しました。

火山性地震の発生状況

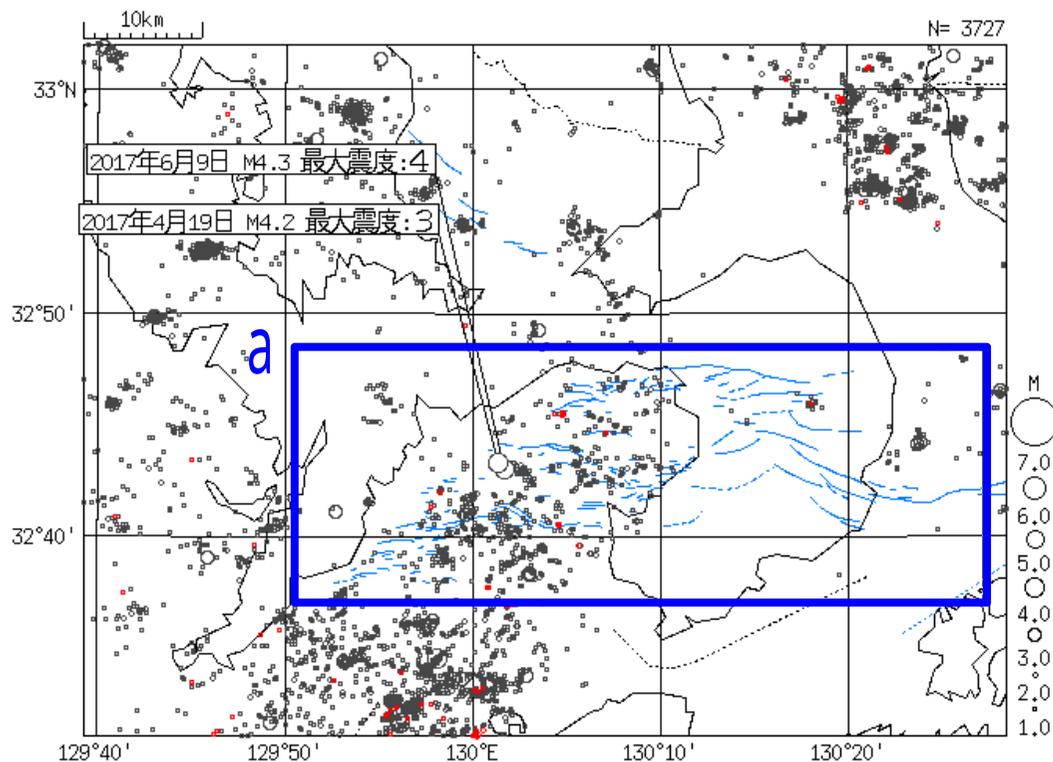


： 2019年1月～2019年12月の震源
： 2010年1月～2018年12月の震源

図5 火山性地震の震源分布図(2010年1月～2019年12月)

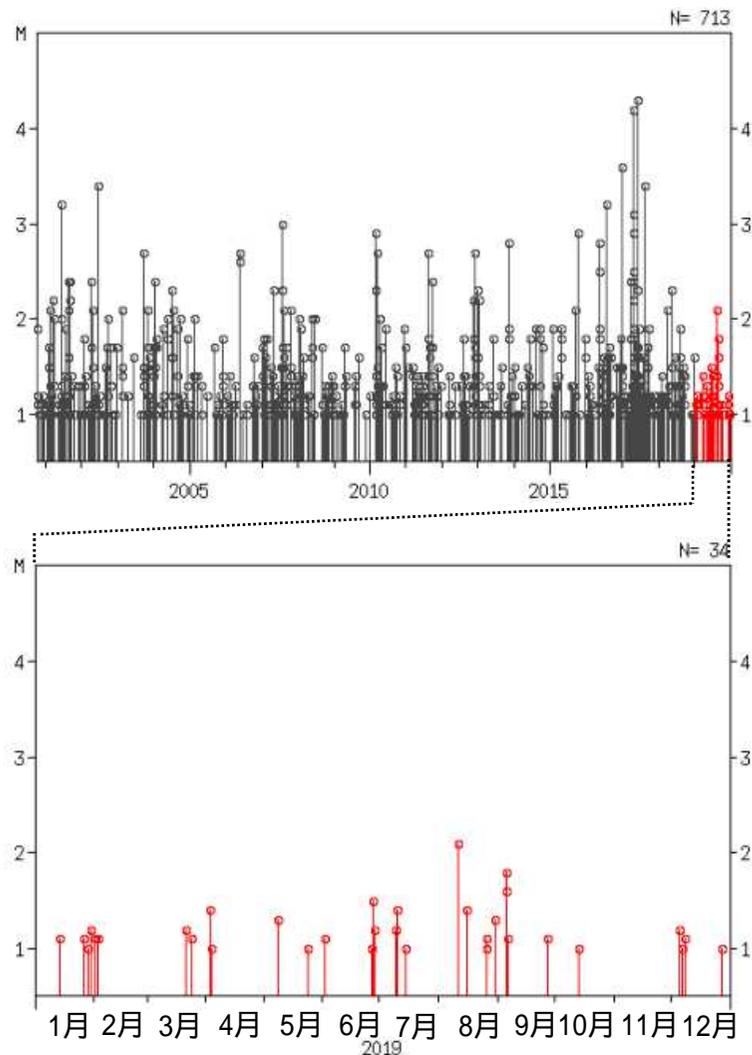
震源(、)は、主に普賢岳から平成新山直下に分布しました。その他、橘湾付近や島原半島西岸付近に分布しました。

雲仙岳周辺の地震活動



震央分布図

- : 2019年1月～2019年12月の震源
- : 2000年10月～2019年12月の震源

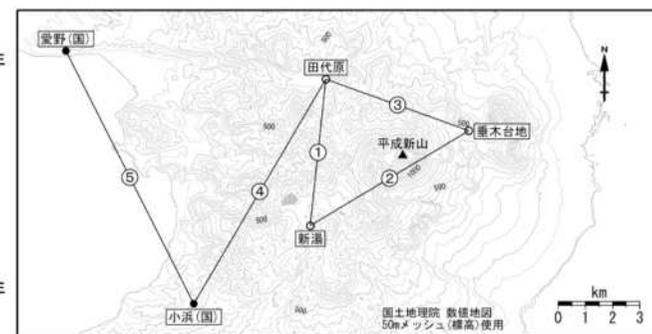
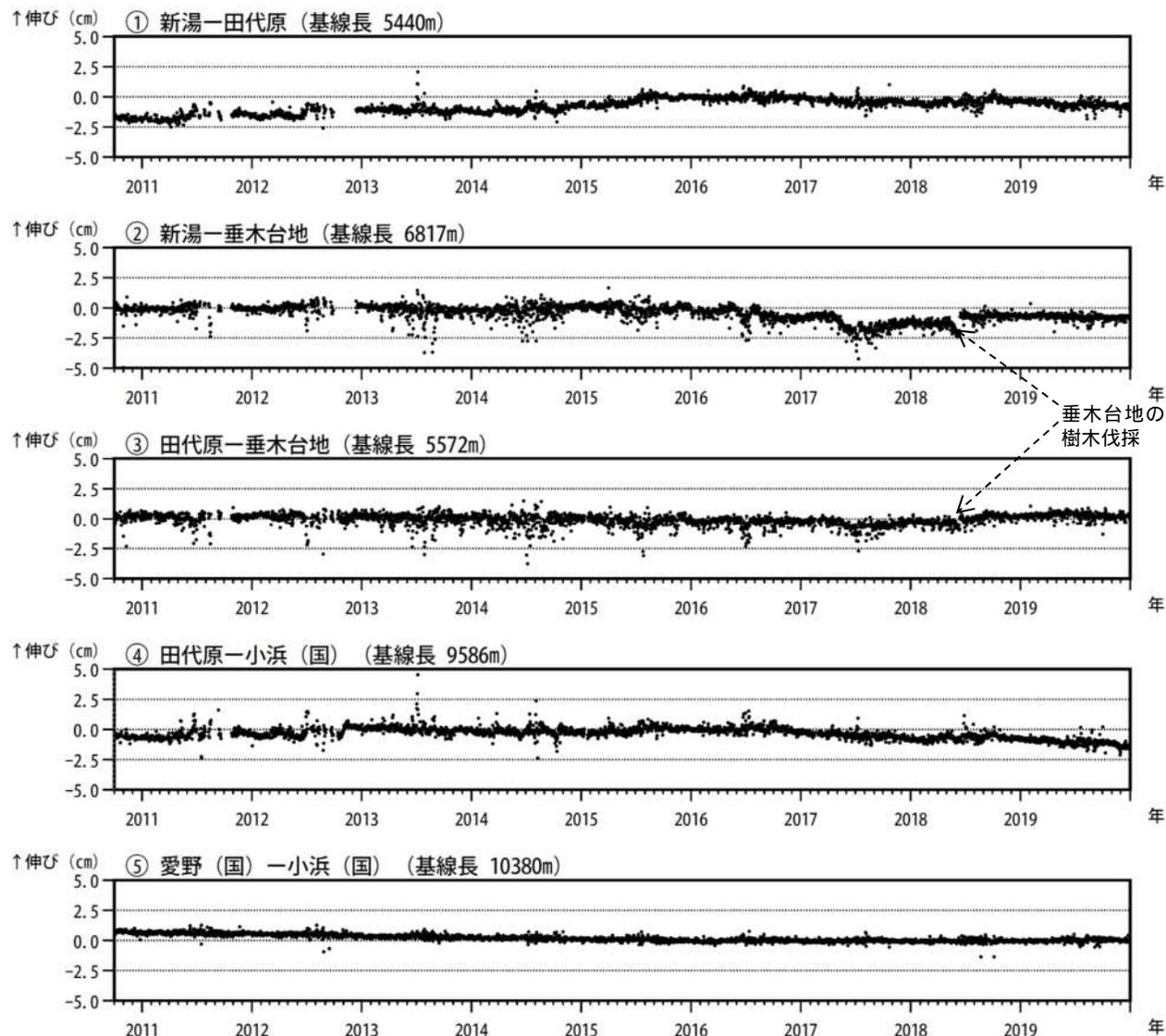


左図a領域地震活動経過図

- 上段: 2000年10月1日～2019年12月31日
- 下段: 2019年1月1日～2019年12月31日

雲仙岳周辺の地震活動 (2000年10月～2019年12月 M 1.0)

GNSS連続観測による基線長の変化



雲仙岳 GNSS連続観測点と基線番号

小さな白丸 () は気象庁、
小さな黒丸 () は(国)：国土地理院

図6 GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月~2019年12月)
GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

- 火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

長期的には2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2 kmを震源とする火山性地震が時々発生しています

- 平成19年12月1日に発表した噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）以降、予報事項に変更はありません。